

2013年国際協議会に参加して

ガバナー・エレクト

福家 宏 (八尾中央RC)



2013年1月13日(月)～18日(金)まで6日間にわたり、米国カリフォルニア州サン・ディエゴにおいて2013年国際協議会が開催され、私は日本の34地区のGEと共にこれに参加し、研修を受けて参りました。

1月12日午後、伊丹から出発して成田で集合、ロサンゼルスに向かいました。ロサンゼルスは随分寒く、空調が故障した寒い部屋での第1泊目はその後続く厳しい研修の予兆かと眠れぬ夜を過ごしました。次の日バスでサン・ディエゴに向かいましたが、途中デイズニー・ランドやかつて国際協議会の開催地であったアナハイムを右に見ながら2時間余りで目的地のマンチェスター・グラウンド・ハイアットに到着しました。その会場は超大型のコンベンション・ホールを複数備えた巨大ホテルです。田中作次RI会長初め、松宮RI理事、北RI理事エレクト、研修リーダーの皆様方の出迎えを受け、嬉しい気持ちにさせられました。まずは離れのギャラリーで田中RI会長から歓迎と励ましのお言葉を頂き、次いでこれからの予定を初めとするガイダンスを受け、登録を済ませたのち館内ツアーを経て16時頃客室に落ち着きました。

さて、ついに研修第一日目の14日(火)朝を迎え、6時半には朝食を摂り、8時半からの「入りて学ぶ」開会本会議に臨みました。田中RI会長の開会宣言と歓迎の辞が述べられ、ロータリー加盟国の国旗紹介がありました。



国旗を捧げるのは研修リーダーご夫妻の皆様方でした。次いで日本と米国の国家斉唱で、最初の「君が代」斉唱はやはり感動的でした。RI理事の紹介の後、いよいよロン・バートンRI会長エレクトご夫妻の登場です。満場のスタンディング・オベーションに迎えられて笑顔一杯での登場でした。バートン氏は米国オクラホマ州出身の弁護士で奥様は数学者です。

間もなく2013-14年度RIテーマ講演が始まりましたがその前にお伝えしておきたいのは、私たちは予めFirst Class と書かれた赤いバッジを与えられていたことです。実はバートン氏から夏の終わりに私たちGEに手紙が送られて来られ「皆さん、国際協議会までにロータリー財団に寄付をして下さい」という内容でした。私はこれに応えて自分としては過去最大の寄付を行いました。バートン氏はその手紙の話に次いで「私は皆さんがロータリアンに寄付を要請するのなら、自ら手本を示して欲しかったのです。その手紙の成果は素晴らしいもので、何と675,400ドルもの寄付が集まったのです。こんなことは初めてです。皆様は素晴らしい。You are the First Class!!」と私たちを褒め称えてステージから私たちに拍手を贈られたのです。赤いバッジの意味が分かった瞬間でした。バートン氏はこう付け加えられました。「頼んで

2013地年国際協議会に参加して

みるものだ」…ユーモアたっぷりの語りでした。このあとバートン氏は比較的静かな声で語りかけました。ロータリーを真に実践し、ロータリーの奉仕と価値観を日々活かす努力をすれば、周囲に良い影響をもたらすことが出来る。人々の人生を豊かにしようとする努力は、あなた自身の人生を豊かにする。と語りかけた上で「Engage Rotary Change Lives」と高らかに次年度RIテーマを打ち上げられました。スクリーンには各国の言語でこれが映し出されました。日本語訳は「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」でした。この訳語にはあなた自身の人生を豊かにするという意味が欠けているように感じたのは、私だけではなかったように思います。私は次年度地区方針を決定するときには、是非ここを満たす意味合いの文言を盛り込みたいと考えました。

もう余り紙面が許しません。国際協議会は、本会議という全員参加のミーティングと、いくつかの中会場でのパネル・ディスカッション、日本の34地区のGEが17名の2班に分かれてのアイデア交換、主題別のディスカッションなどが繰り返されて、6日間にわたる研修を積み上げて行きます。小グループでのミーティングでは必ず発言を求められますので、自身の意見をきちんと述べることも訓練されます。研修の合間に楽しいプログラムも設定されており、民族衣装に身を包んでお国自慢の踊りを披露する夕べ、正装しての晩餐会とこれに続く舞踏会などがあり、多くの他国の人々とお付き合いをすることになります。晩餐会も初対面の米国人やアイルランド人と一緒です。肌の色も言語も、習慣も宗教も文化も全然異なった人々が、手を繋いで共に声を合わせて歌を歌い、肩をたたき合い飲み交わす、みんなすぐに友達のようになってしまう。これもロータリーの醍醐味の一つに違いないと感じました。

比較的フリーな夜、幸いなことに今年度地区大会のRI会長代理をお務め下さった元RI理事の渡辺好政先生から夕食のお誘いを頂いたので、参上するとリスボン国際大会組織委員会メンバー3名がおられ、楽しいひとときを過ごしました。宴の終りに、組織委員会章(それはまるで勲章さながらです)を渡辺先生自らの手で私の胸に付けて頂き、とても感激しました。

17日からは、「未来の夢」実施のため異例ながら地区財団委員長も合流しての研修となり、私も溝畑正信当地区財団委員長と肩を並べて研修しました。このようにして6日間のスケジュールが終了して19日朝、松宮理事や研修リーダーの見送りを受けながら、ロサンゼルス経由で帰途につきました。

緊張や感動を繰り返しながらの6日間の研修で一体どれだけのことが身に付いたのか定かではありませんが、他地区のGEとは本当に仲良くなり、絆が出来上がって行くことを実感できたことは確かで、これは大収穫でありました。

さてチャージしたことを如何にディスチャージするのか、これが難問であることも確かです。いよいよこれからが本番です。

